

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 96 人

② 算数 96 人

③ 理科 96 人

5 留意事項

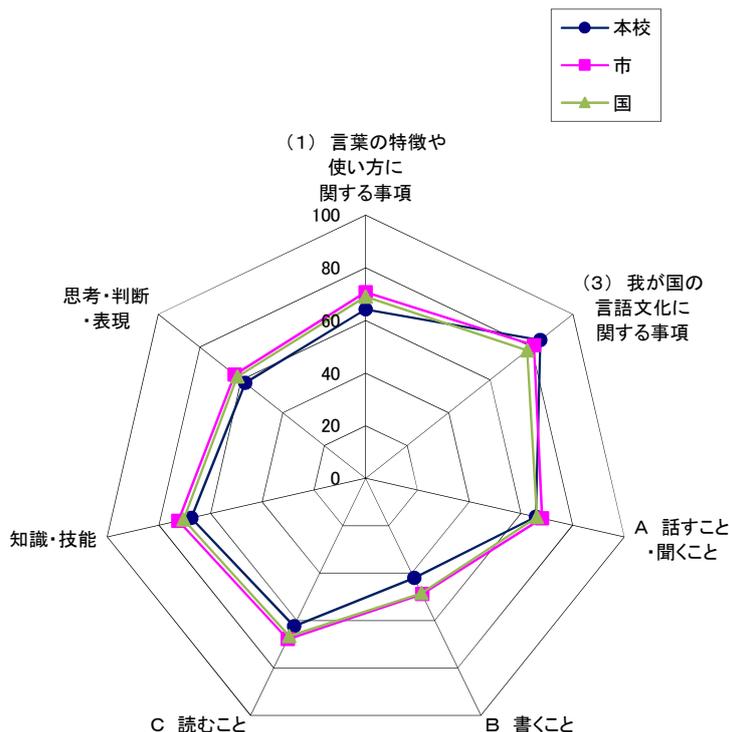
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.2	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.8	68.2	66.2
	B 書くこと	42.1	48.9	48.5
	C 読むこと	62.4	67.9	66.6
観点	知識・技能	67.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	58.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



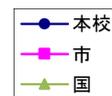
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○話し言葉と書き言葉との違いを理解することについての正答率は87.4%で、国の平均正答率より1.9ポイント上回った。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率は、どの問題も国や県の平均正答率より下回っており、また、無解答の児童数の割合はどの問題も上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際には、漢字の形を捉えるだけでなく、意味を理解して使えるように、短文を作るなど、学級全体で知識を共有できる時間を取るようになる。また、朝の時間を活用した小テストや、家庭と連携し漢字学習に継続的に取り組むなど、知識の定着を図る。 ・漢字学習へ意欲的に取り組めるように、学習の後には自身の知識の定着を実感できるような振り返りを行う。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題の正答率は84.2%で、国の平均正答率より6.3ポイント上回った。 ●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題の無解答率は5.3%で、県の平均無解答率より2.5ポイント下回った。	・書写の授業では、毛筆の際にも字形や画のポイントを意識しながら書けるように指導する。また、整った字に限らず、学習したポイントに沿った字や、意欲的に取り組む姿勢なども褒めることで、児童が楽しみながら取り組めるようにする。
A 話すこと・聞くこと	○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題での正答率は85.3%で、国の平均正答率よりやや上回った。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率は46.3%で、2ポイント下回った。	・授業の中で、根拠をもとに考えをまとめたり、自分の意図や思いをもって表現したりする時間を十分に取るようにするとともに、それをもとに意見交換をする場を設けるようにする。 ・国語以外の教科でも、話し合い活動をする際には、自分の考えを構成的に発表できるよう指導する。
B 書くこと	●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題の正答率は52.6%で、国や県の平均正答率より5ポイント以上下回った。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率は31.6%で、国や県の平均正答率より6ポイント以上下回った。	・作文指導を定期的に取り入れ、書いたものを必ず読み直したり、自分の主張が相手に伝わるかを確認したりする。 ・自分が書いた作文や資料を自力または相互で推敲できるように指導する。また、完成した文章や行った活動の良さを自らまとめることができるようにする。
C 読むこと	○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題も正答率は69.5%で、国や県の平均正答率をやや上回った。 ●表現の効果を考える問題の正答率は50.5%で、国や県の平均正答率を8ポイント以上下回った。	・読み聞かせや、簡単な文章の読み取りなどを取り入れることで、様々な表現の効果に触れることができるようにする。 ・物語文では、印象に残る言葉・文章・場面を見つけ、登場人物の思いを想像しながら読み進めることで、登場人物の思いと表現の効果の繋がりを意識できるようにする。

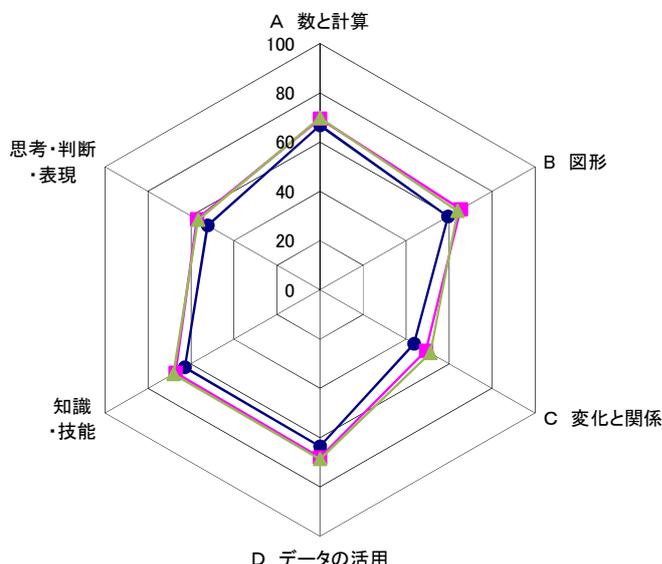
宇都宮市立新田小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.8	69.5	69.8
	B 図形	59.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	43.7	49.3	51.3
	D データの活用	63.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	62.9	67.3	68.2
	思考・判断・表現	52.3	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

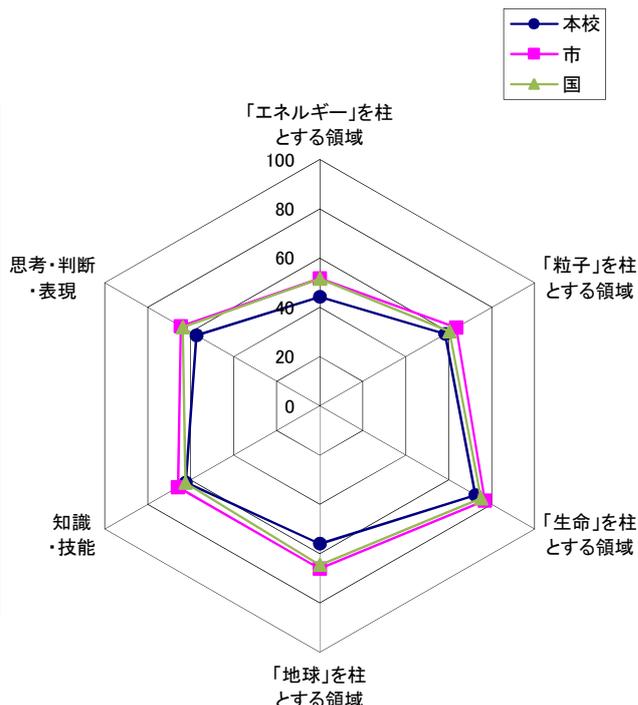
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○1050×4を計算する問題の正答率は94.7%で国の平均正答率より2.3ポイント上回った。</p> <p>○85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題の正答率は37.9%で国の平均正答率より3.1ポイント上回った。</p> <p>●カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く問題の正答率は70.5%で国の平均正答率より5.5ポイント下回った。</p>	<p>・課題解決をするために必要な既習事項を考える習慣を付けさせる。</p> <p>・自分の考えを説明したり、友達と意見交換したりすることにより、課題に対する考えを深められるようにする。</p> <p>・問題文をよく読み、問題場面的に的確に捉え、言葉や式を用いて表現することの有用性を児童が実感できるように、与えられた条件を表や図・数直線を用いて整理したり、正しく計算したりする学習活動を多く取り入れる。</p>
B 図形	<p>○示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題の正答率は48.4%で国の平均正答率と同程度である。</p> <p>●長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く問題の正答率は75.8%で国の平均正答率より7.4ポイント下回った。</p> <p>●辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ問題の正答率は60.0%で国の平均正答率より6.5ポイント下回った。</p>	<p>・図形の性質や感覚を豊かにするため図形を構成したり分解したりする操作活動を多く取り入れ、横、縦、高さの三つの要素について体験的に捉えさせる。</p> <p>・具体物や半具体物を用いて、図形の特徴を視覚的に捉えたり、図形の描き方や面積・体積の求め方をより具体的に説明したりできるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>●果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す問題の正答率は28.4%で国の平均正答率より16.7ポイント下回った。</p> <p>●果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く問題の正答率は38.9%で国の平均正答率より9.1ポイント下回った。</p>	<p>・自分の考えを根拠を明確にして記述する力を育てるために、根拠となる条件を整理し、解決の見通しをもたせて自分の考えを記述するように指導する。</p> <p>・問題を解くための情報を見つけたり、条件に合うように整理して考えたりできるように、多くの文章問題に取り組ませるようにする。</p> <p>・文章問題において立式する際は、数字だけではなく、算数で使う用語や、図などを使って説明できるように指導する。さらに、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ友達と意見交換する活動を取り入れる。</p>
D データの活用	<p>●分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ問題の正答率は56.8%で国の平均正答率より7.1ポイント下回った。</p> <p>●1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ問題の正答率は62.1%で国の平均正答率より4.7ポイント下回った。</p>	<p>・式の意味を理解することができるように、線分図やテープ図などを用いて、可視化して考える活動を取り入れる。</p> <p>・一つのグラフの読み取りにとどまらず、複数のグラフの情報を関連させながらグラフを読み取る活動を取り入れる。また、具体的な生活の中の情報からグラフを作成するなど意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>・他教科においても、単にグラフの数値だけ読み取るのではなく、そこから分かる傾向なども捉えさせるようにする。</p>

宇都宮市立新田小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	44.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	72.4	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	56.0	66.1	64.6
観点	知識・技能	62.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	57.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○光の性質を基に、鏡を操作して指定した的に反射させた日光を当てる問題の正答率は28.4%と、国の平均正答率より0.6ポイントより上回った。</p> <p>●鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に継続して同じ条件で実験を行うために、実験方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題では、正答率が57.9%と国の平均正答率より10.7ポイントより下回った。</p>	<p>・課題解決に向け、課題・予想・仮説・方法・結果・考察・まとめといった学習の流れをしっかりと意識させながら、実験・観察を行うように指導していく。</p> <p>・自分の疑問から課題を設定し、解決するための方法を考える時間をしっかりと確保し、自分の言葉で解決方法を書く指導を充実していく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○一定の量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く問題の正答率は81.1%と、国の平均正答率より13.3ポイントより上回った。</p> <p>○メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ問題の正答率は72.6%と、国の平均正答率より2.6ポイントより上回った。</p> <p>●水溶液の凍り方について、一軒の結果を基にそれぞれの水溶液の凍る温度を見出し、予想を基に問題に対するまとめを選ぶ問題の正答率は53.7%。</p>	<p>・課題解決の流れを意識させると共に、得られた結果からどのようなことが分かるのか、しっかりと考察できるよう、見る視点を与えながら指導していく。その際、自分の言葉で考察を書く指導を充実させるようにする。</p> <p>・得られた結果が、自分の予想に対してどうであったのかを振り返り、まとめる活動を十分とるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明する視点を選ぶ問題の正答率は75.8%と国の平均正答率より2.7ポイントより上回った。</p> <p>○資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から表のどこに当てはまるのかを選ぶ問題の正答率は78.9%と、国の平均正答率より2.8ポイントより上回った。</p> <p>●自分の観察記録と新たに追加された他者の記録を基に問題に対するまとめを見直し書く問題の正答率は53.7%。</p>	<p>・実際に観察していないものについても、他者の観察記録や表から、その特徴を読み取り、既習事項と合わせながら、自分の言葉でまとめる活動を取り入れるようにしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>●結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものかを選ぶ問題の正答率は29.5%と、国の平均正答率より15ポイントより下回った。</p> <p>●鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したものかを書く問題の正答率は30.5%と、国の平均正答率より12.6ポイントより下回った。</p>	<p>・実験や観察の結果から、何が言えるのかを考察させる際は、日頃から、どこの部分に注目して考えたのか、理由も書かせるようにしていく。</p> <p>・水の粒や水蒸気について、しっかりと理解できるように指導していく。</p>

宇都宮市立新田小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」と回答した児童の割合は62.5%で、国と比べて18.5ポイント下回っているが、「先生は、よいところを認めてくれる」「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」という設問には8割以上が肯定的に回答していることから、自己肯定感が高く、意欲的に学校生活を送っている児童が多いと考えられる。今後も、学習や学校行事などで達成感や有用感がもてる教育活動を推進するとともに、家庭とも連携をとり、子ども達がよさを認められていると感じられるように、指導や声かけの工夫をしたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と肯定的な回答をした児童の割合は94.8%で、国と比べて3ポイント下回っているが、日常的な指導のほか、「いじめゼロ集会」を高学年児童が中心となって開催することにより、児童自身が「いじめ」について真剣に考えることができていく。

○「友達と協力するのは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は91.6%、「人が困っているときは、進んで助けていきますか」と肯定的な回答をした児童の割合は88.6%で、本校の児童は、協力して何かを成し遂げることの大切さや楽しさを感じながら学校生活を送っている。今後も引き続き、一人一人が居がいのある学級づくりを心掛ける。

●「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」と肯定的な回答をした児童の割合は63.4%で、国と比べて10.1ポイント下回った。今後も引き続き、多様な考えがあってもいい、失敗したり間違えたりしても大丈夫だという安心感のある学級経営をしていく。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習に生かすことができる」と肯定的な回答をした児童の割合は71.9%で、国と比べて6.3ポイント下回った。本校でも、学習の「振り返り」を書いているが、教師自身も、単元の見直しをもち、本時の学習内容が次の学習につながっていくことを意識し、振り返る視点をより明確にして指導していく。

○「算数の勉強は大切だと思いますか」の設問に肯定的な回答をした児童の割合は95.8%、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の設問に肯定的な回答をした児童の割合は94.8%で、国の肯定割合を上回っている。算数の有用性を感じている児童が多い。

○「理科の勉強が好きですか」の設問に肯定的な回答をした児童の割合は81.2%で、国の肯定割合と比べて1.5ポイント上回った。

●「国語、算数の勉強が好きですか」の肯定的回答の割合はそれぞれ、国語56.3%、算数49.0%で、国の肯定割合を下回っている。国語や算数に対しての学習意欲がやや低いと言える。児童の関心や意欲を高める授業展開の工夫が必要である。

●「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の設問に肯定的な回答をした児童の割合は63.6%で、国の肯定割合と比べて13.2ポイント下回った。算数授業において、考えを交流し合う時間を確保し、学び合いを取り入れた授業展開の工夫を行うことで、より効率的な解き方を発見し、活用しようとする意欲を高める。

●「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」の設問に肯定的な回答をした児童の割合は23.9%で、国と比べて2.7ポイント下回った。授業で習ったことが生活や科学にどうつながっているのかを考えさせながら取り組ませることで、未来への希望をもたせる。

宇都宮市立新田小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
望ましい学習態度、習慣の定着	基本的な学習のきまりに基づく段階的指導	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」では、肯定的回答が73%で、県や全国を大きく下回っている。
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	児童が目的意識をもち、進んで課題解決に向かい、対話により思考力を深めていけるような発問や授業展開の工夫	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」には78.1%が肯定的回答をしている。
読解力・表現力の育成	話し合い活動の場の設定や思考を整理し、過程を振り返ることのできるノート指導	「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」では、肯定的回答が54.1%と県や全国と下回っている。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的回答が73%と県や全国を大きく下回っている。
読書活動の推進	学級使用割当による読書時間の活用（各学級週1回利用）、「家読」の推奨、「読書の記録」や「多読賞」による意欲付け	約7割の児童が読書は好きと答えてる。「平日の読書時間は30分以上、1時間より少ない」の回答が21.9%であり、これは、県や全国の平均よりも上
家庭学習の習慣化	学力向上を図るための、宿題や自主学習ノートの点検の仕方の工夫と、発達段階に応じた家庭学習の在り方の啓発	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」では、肯定的回答が58.3%と県の76.9%よりも18.6ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・3教科とも全体的に低い傾向にある。	・復習による知識・技能の定着と個に応じた指導	・基礎的な知識・技能の定着を図るため、個に応じてスモールステップで、何度も学び直しができるようにしていく。
・知識・技能を「活用」し、思考力が必要とされる問題や、文章で解答する「記述」の問題に課題が見られる。	・文章や問題文の意図を適切に読み取る読解力の育成と作文技能の向上	・児童の思考を促す板書の工夫と、自分の考えを整理するためのノートの取り方を指導する。 ・何が分かって、何が疑問なのかなど、視点を明確にした「振り返り」を書く。